

特別支援学校における 寄宿舎の状況

令和 5 (2023) 年 8 月28日 特別支援教育課

1

寄宿舎とは

- ・児童生徒が月曜～金曜日まで宿泊し、通学(土日は家庭)。
- ・基本的に、日常生活動作が概ね自立している児童生徒で、入舎を希望する中から、年度ごとに入舎生を決定。
- ・入舎した児童生徒が、家庭における養育から離れることに伴い、寄宿舎指導員が「日常生活上の世話及び生活指導に従事する」。
- ・教員も舎監として、宿直業務(寄宿舎の管理及び児童生徒の教育)に当たる。

2

2

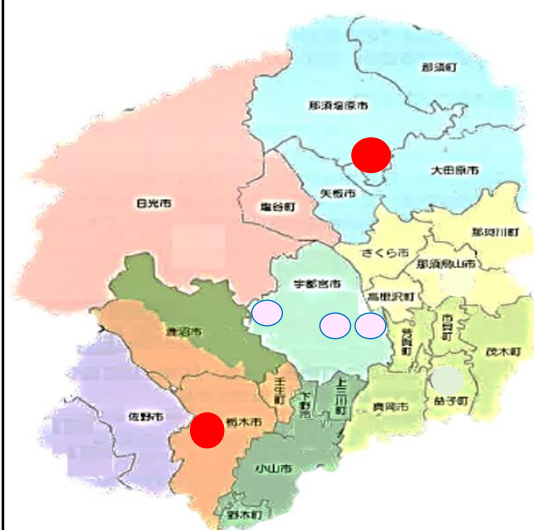
例	6:30～ 7:00	起床、洗面、着替え		6:00	17:30～ 18:10	配膳、夕食	
	7:00～ 7:30	清掃、朝会	7:30		18:10～ 18:30	歯磨き、就寝準備	遅番
	7:30～ 8:10	配膳、朝食		宿直	18:30～ 19:00	自習時間	19:00
	8:10～ 8:40	歯磨き、登校準備	8:30		19:00～ 21:50	余暇時間	宿直
	8:40	登校	早番	10:30	19:50～ 20:00	小学部 着替え、消灯	
	下校 13:20	小学部【月・金】	日勤	10:00	20:50～ 21:00	中学部 着替え、消灯	
	下校 14:15	全学部【水】	遅番		21:50～ 22:00	高等部 着替え、消灯	
	下校 15:10	全学部【火・木】	遅番＋宿直				23:00
	下校時～ 17:30	おやつ、入浴、余暇時間	16:00	17:00	宿直(4名): 寄宿舍指導員3名、舎監1名		

3

3

寄宿舍設置の経緯

●は知的障害特別支援学校



■寄宿舍設置校 5校

■盲、聾、のざわは、通学圏が
県全域のため寄宿舍を設置

■栃木、那須は、開校当初、
それぞれ県南、県北唯一の
知的障害特別支援学校で
あったことから、通学保障
のため設置

4

4

寄宿舎に係る経緯について（参考資料6、7参照）

- ・県内各地域への知的障害特別支援学校の設置、道路網の整備等により遠距離を理由に寄宿舎を利用する子どもが減少するとともに、スクールバスでの通学が可能となったことや、施設の設置から40年以上が経過し老朽化が著しいことから、令和5年3月末に閉舎することとし、令和3年11月2日に公表。
- ・その後、県議会に陳情書が提出され、検討の結果、令和4年12月議会において、教育長が令和5年3月末の閉舎は延期する旨の答弁。
- ・寄宿舎の在り方も含めた幼児児童生徒の生活指導などについて議論するため、令和5年8月、教育や福祉の関係者、有識者等からなる検討会を設置。

5

寄宿舎生数及び寄宿舎指導員定数

（R5年5月1日現在）

R5 学校名	入舎生数(人) *()内は通学困難者(内数)					寄宿舎指導員定数(人)		
	幼	小	中	高	合計	正 規 職 員	期 限 付 職 員	合 計
盲	0(0)	2(1)	4(3)	7(7)	13(11)	10	4	14
聾	0(0)	5(5)	5(5)	4(3)	14(13)	9	4	13
のざわ		2(1)	5(1)	10(6)	17(8)	13	6	19
栃木		0(0)	6(0)	10(1)	16(1)	10	3	13
那須		1(0)	11(1)	14(1)	26(2)	6	8	14
合計	0(0)	10(7)	31(10)	45(18)	86(35)	48	25	73

6

入舎生数の推移（栃木、那須）

（各年度5月1日現在）

年度	開校 当初	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
栃木	39 (39)	31 (1)	32 (2)	32 (0)	30 (0)	30 (1)	30 (3)	30 (4)	30 (5)	16 (1)
那須	25 (25)	26 (4)	27 (5)	27 (5)	26 (6)	26 (7)	26 (5)	26 (5)	26 (3)	26 (2)

※遠距離による通学困難を理由とする入舎生数（ ）は内数

7

7

寄宿舍の施設状況（栃木、那須）

（R5年5月現在）

学校名	設置年度	経過年数	部屋数	畳数	施設定員
栃木	S49	49	12	12	45
那須	S53	45	6	11	26

8

特別支援学校における 寄宿舎に係る他県調査結果

- 1 調査目的
寄宿舎の在り方について検討するにあたり、
全国の寄宿舎の現状を確認する。
- 2 調査対象：全都道府県（回答率100%）
- 3 調査時期
令和5（2023）年7月

9

1 寄宿舎の設置状況について

（1）特別支援学校の設置校数及び寄宿舎設置校数

	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	併設	計
特別支援学校設置校数	57	79	498	98	55	210	997
寄宿舎設置校数	57	61	96	36	3	48	301
設置割合	100%	77.2%	19.3%	36.7%	5.5%	22.9%	30.2%

（2）特別支援学校（知的障害）に寄宿舎を設置していない都道府県数 11

10

2 寄宿舎の増減（過去10年間）

※数字は増減のあった都道府県数

		知的		視・聴・ 肢体・病弱	増減の理由
		高等特別 支援学校	高等特別支 援学校以外		
寄宿舎 の増(5)	増加(4)	4	0	0	・高等特別支援学校（通学圏県内全域）の 新設（5）
	増加計画 あり(1)	1	0	0	
寄宿舎 の減(13)	減少(10)	0	4	4	・利用者の減（5） ・学校統合（5） ・通学困難の解消（2） ・学校の改築に併せた閉舎（1）
	減少計画 あり(3)	0	0	3	

※知的を含む併設校は、知的の都道府県で計上

◎減少した都道府県の閉舎後の対応

- ・他校の寄宿舎と統合 3
- ・学区の変更 1
- ・生活実習室における教育活動を実施 1
- ・対応の必要無し 5

3 寄宿舎の設置目的

（回答都道府県：特別支援学校（知的障害）に寄宿舎を設置している36都道府県）

設置目的	都道府県数	実施割合	備 考
通学保障	36	100%	遠距離通学者、送迎困難な家庭の 支援
教育的入舎 を認めている	13	36.1%	生活指導のための受入れ
福祉的入舎 を認めている	4	11.1%	養育困難な家庭等の支援のための 受入れ

4 他都道府県の事例

- (1) 全ての知的の特別支援学校に寄宿舎を設置
 - ・ 県土が広く、通学圏も広いことから、スクールバスによる対応が難しいため、知的障害特別支援学校全てに寄宿舎を設置
- (2) 高等特別支援学校における寄宿舎の活用
 - ・ 高等特別支援学校において、卒業後の社会的・職業的自立を目指し、全寮制にして寄宿舎を活用
- (3) 他の特別支援学校の整備による寄宿舎の閉舎
 - ・ 他の特別支援学校を設置することで、通学困難が解消されたことにより、寄宿舎を閉舎